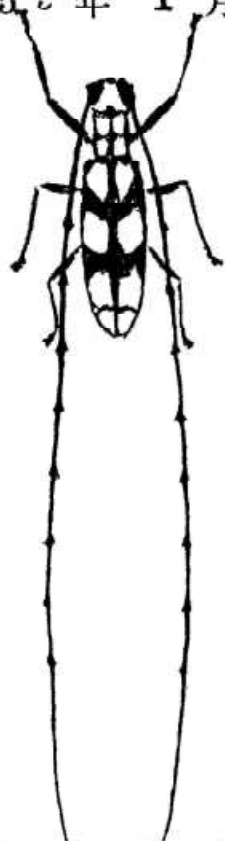

すずむし

SUZUMUSHI
創刊四周年記念号

Vol. 5 No.1

1950年1月



倉敷昆虫同好会

目 次

備南の蝶の初発日調査記録 (1952年度)	I	広瀬 義躬	1
おとしぶみ				
ウラジロミドリシジミについて		安東 瑞夫	2
玉島のロカブトムシ		小野 洋	3
1953年初春のモンシロチョウ発生小録		広瀬 義躬	3
きあげはにおける異常長期の蛹		船越 俊平	4
年 頭 所 感		小野 洋	5
編 集 後 記				6

表 紙 説 明

図は *Olenecamptus octopustulatus formosanus* PIC タカサゴシロカミキリ。
 台湾、アヤマミ大島、徳ノ島、九州、四国、本州に分布する
 もので、当地方では殊に6月ごろ近くのノグルミの林で普
 通に採集できる。 (編 集 部)

備南の蝶の初発日調査記録(1952年度)

(I)

広瀬義躬

§ 1 . ま え が き

こゝに報告する記録は、1952年の始めに私が計画し、本会々員に呼びかけて、多くの方々の御援助の下に資料の集積に努め、それらを分類、整理したものである。整理出来次第発表するつもりで翌1953年中には是非発表して、御協力いただいた方々の御芳志に御応えしたいと考えていたが、私の多忙のまゝにかくの如くその遅延を余儀なくされたことは、当時御協力下さった諸氏に対して誠に相済みないと思う次第である。

当初私は相当形の整ったものを作る考えで努力したのだが、種々の事情で、かくの如く只記録を棒書きにしたに過ぎないものに終ってしまった非常に残念に思っている。しかしこの記録の一つ一つは、協力された諸氏の日々絶えざる採集、観察より生れ、極めて正確とはいえないまでも、それに近い形のものであり、又それだけに非常に価値あるものと信じる。何と云っても備南産の蝶70種余の内の8割近くの種について、このような正確な記録の集ったことは、編者としても大きな喜びとするところである。

この調査に当っては、上述の如く本会々員の多数の方々の御援助並に御協力をいただき、又会員外からも少からぬ御協力があつた。こゝに明記して厚く感謝の意を表する。特に水野弘造君は総社附近の非常に詳しい記録を多数寄せられ、会員外の歌村君以下数名の方々の助力も、同君の指導、記録整理の努力に負うところが多い。同君の旺盛な活動には全く敬服の他にない次第で、同君の労を多としたい。

§ 2 . 調 査 に つ い て

先ず調査地域としての備南という区域の設定であるが、備南とは通常、備中、備前の南部地帯を指すものと解される。しかし備北と称される地帯とどの附近を以て境界とするかが問題となる。勿論、備南、備北は一般的な呼称であるから、両区域の明確な境界というものはないが、本調査では一応、総社一岡山の線で、即ち岡山、倉敷の諸都市の一带に広がっている県南部平野が北上するに従い、300-500m級の山地と接する一線で以て備北との区切をつけ、記録としても、この線以北のも

のは収載せず、必要あらば参考までに記すに止めた。

本県下では北上するに伴い、蝶の出現期は遅れることが予想され、又これより以北の豪溪一金山の線では蝶相も多少違って来るので以上述べた点のはっきりしておく必要があると思う。従って本稿は県南部の平地、即ち山地といっても僅かに200-300m級の小丘陵の散在する地域での記録である。

又調査に当っては、確実な記録のみ取挙げ、本文にはその内で最も早い例を記したが、異常的に早いと思われるものは、そのみ記さず、通常の発生と思われる記録をも記すように努めた。

§ 3 . 凡 例

本文の記録は種名、()内に頭数(判明せるものは性別も)、日付、場所、()内に記録者名、例年の発生から見ての遅速の判定、[]内に越冬或は第1化et c (必要あるものにのみ)の順に記してある。例年に比しての遅速の判定の項で、+は早い発生、-は遅い発生を意味し、++、+、±、-、--、の5段階に分けてその程度を示した。

この判定の根拠は、今までこのように一応まとまった初発日の記録のないため、1947-49の3カ年にわたる小野、青野両氏の資料及び1950年以後の私の手持資料により決定した旬単位の出現に基くもので、この旬単位の出現期は以上の記録の下段に記してある。又本文の記録中には、この年始めて知られた種類、或はその記録された季節が近年において珍しい場合の種類等も取り挙げているが、このような種類に対しては、以前の記録との比較が出来ない為、特殊な記録としてその旨説明し、種名の右肩に*印を付している。又多化性の種類で、その記録された化生の出現期が過去の記録から大体わかっていても、調査では只一つしか得られなかった記録は正確なものとはいへないので〔参考〕として附記しておくにとどめた。 (未完)



ウラジロミドリシジミについて

本種の分布は他の山地性 *Zerkyrus* とや
異なり本州西半においてはしばしば低地から記

録され、近い所では広島県三次町、兵庫県作
野郡、倉敷市外黒田町が挙げられるが、作野地方
からは下記の二産地が知られているのでこゝに
簡単に報告する。

- 1、英田郡作野町藤生 採集者 道信 順
- 2、* 美作町林野暮谷 * 大崎忠雄

いずれも二百米以下の低地帯でカシワ林に見ら
れる。前者は道信氏の私信によれば近年伐林に

より個体数が減少した由である後者は唯一個体の記録(採集年月日不明)であるが調査不充分的な為で今後採集される可能性は多分にある。末筆ながら資料を提供下さった両氏に厚く御礼申上げる。(安東 瑞夫)

玉島のコカブトムシ

Eophileurus chinensis

FALDERMANNは倉敷においても産地が限られ、個体数も多くないが、玉島市でも若干見出されるようで、下記の記録を知ったので報告する、

玉島市島地 1954年8月19日 平田 勇
(小野 洋)

1953年初春の

モンシロチョウ発生小録

この小文は先に私が本誌VOL 1. ㉒9に報告したものと同様、この年のモンシロチョウの出現状況について記すものですが、この年はほとんど協力して下さる方がなく、以下の記録は大部分私個人の観察で、偏見も多いと思えますから御指摘下されば幸いです。こ

生物・地学標本複製

昆虫採集用具

理化学器械

テレビ

ラジオ

真空管

テープコーダー

島津製作所岡山県代理店

サカエ商会

倉敷市栄町(赤木病院西) 電話 713番

れだけの資料で全般的な発生状況を推察するのは困難ですが、とにかくこの様な記録は毎年続けて行くのが良いので、春来る毎に注意して記録をとっています。今後も続けて行くつもりなので諸兄の御協力を懇願します。

まず記録を列挙しますと次の様です。

観察月日、場所、頭数、備考の順に記してあります。

(1) 2月18日 岡山市にて 1頭(小野洋氏報告、本誌VOL. 3 ㉒3)

(2) 2月28日 岡山市網浜にて 1頭(当日は午前中気温高く晴れたり曇ったりの天候でしたが、この個体を発見したP. M. 1:30後1時間も経たないうちに雨が降り出すというような有様でした。前日の方がむしろ気温高く天気も良かったので、この個体は前日発生したものかも知れません。)

(3) 3月8日 倉敷市田之上にて 1頭(山陽新聞によれば、この日の最高気温は14.4°Cで平年よりも4°Cも高いとのことでした。)

(4) 3月9日 倉敷市老松にて 2頭(晴)

(5) 3月10日 岡山市網浜及び門田にて計4頭(快晴、もう完全に発生しているとの感深くした日でした。)

以下記録は3月10日までとり、以後は大体どこでも見られる様になりました。2月28日から次の3月8日まで10日間が迎えて居ります。この間には3月1日及び2日など早春にしてはむしろ暑い程の暖い日ありましたが、注意したにもかかわらず、本種を見ることは出来ま

せんでした。私としては、連日見られる様になったという意味から、3月8日を標準初発日にとりたいと思います。事実この日は前記した如く非常に暖かく、庭の茂みで越冬していたウラギンシジミもこの日飛び去りました。又岡山測候所では、この年の3月上旬の平均気温は8°Cで平年より2、3°Cも高く、その結果サクラの開花も平年より2日早くなる等と予想している(山陽新聞3月10日付による)位本年は3月に入って暖かったようです。標準初発日は前年の3月15日に比して丁度1週間早いことになるわけですが、これは前年の発生が遅すぎるので、年来の記録を眺めてみてこの年位が大体平年の発生状態を示しているのではないかと思います。この年は2月中も暖い日が多く、前年より確かに春の訪れは早かったようです。(終)

本件について1953年及び1954年の資料御持の方は御一報下さい。

(広瀬 義豹)

きあげはに於ける 異常長期の蛹

表題の如く飼育した蛹の羽化が遅れた例を経験したので、こゝに報告する。

昨年6月12日神庭滝に採集を試みた際、きあげは *P. machaon hippocrates* F. 8 F. の1令幼虫が、うど *Aralia wrdata* の葉の上で摂食していたのを発見し、食草と共に三角紙に包んで持ち帰った。

これを試育箱に入れ、せり *Ienantho stolonifera* を与えた。最初の二日は葉裏で静止していたが、三日目から摂食を始めて、順調に脱皮を続け7月上旬蛹化した。

ところが7月が終り8月を半ば過ぎても一向に羽化しない。飼育箱の形状は、底面50cm×50cm、高さ70cmで、前面はガラス、側面は金網、背面上面板張りである。これを家屋の南側に置いたのであるが、温度湿度日照等外部条件と箱の中の条件は大差ないはずである。従って県北の神庭と県南の海岸近くの気象条件が大きく作用を及ぼしたのであろうか、或は食草の変化が更に大きな影響を与えているのであろうか、又両方共原因かも知れない

ところで8月下旬に蛹を入れたままの飼育箱を貨車便で愛知県に発送した。これを倉庫の暗がり1週間ばかり置いていた所、9月2日の早朝羽化したのである前後50日間を の状態でいたわけである。

なお類似の事は石沢慈鳥：「昆虫の飼育室」に記してある。2. 12, 1955.

(船越俊平)

志賀製品
昆虫・植物採集用具
理化学器械

岡山市西中山下(柳川交叉点東)

長瀬教育堂

電話 4725番

年 頭

所 感

◎早いもので「すすむし」も5巻を迎えることになった。当時大原農研に居らえた深谷昌次先生を顧問にいたゞき、高谷東平先生を中心に同志が集って発会した1950年の正月ごろの幸福に包まれたにぎやかな楽しい雰囲気になつかしく回想される。今は亡き白神昭君の笑顔や、既に倉敷を去られ、各地で御活躍を続けられている方々の顔が次々に視野を埋めてしまふ。とにかくあのころはむやみと楽しかった。どうやって今、少女的な感傷にふけり、心がやたらに過去と向うようになるのは自分でもおかしく妙に思われるが、この事は、あまりにも変りはた現在の寂しい状態に起因するのかも知れない。皆んな成長し、それぞれ忙しくなってきたし、活動する為にひまをつくる事のできる顔触れは極めて限られてしまった。その上離倉される方も多く、又後進はほとんどとどえてしまった。これは現在多くの同好会のたどっている道かも知れない。だからとっていつらに過去に心を寄せ過去に生きていたのではそのまゝ道を間違え益々倒会という終末に近づくのみである。あらゆることに努力しなければならない。進んで来た4年間も、決して能率のよい歩みぶりではなかったが、皆んなの方の努力が少しずつ築かれて来ているし、目に見えない貴重な何物か確保されつゝあるような者これからの努力の仕方一つでその方向が決められるだろう。ともかく5年目である。少数の人だけでなく、1人1人が皆んなフンドシをしめなおさなければならない時期が来ているようだ。

◎最近、中高校生の同好の士がすいぶん減少してしまった。これはやはり今いたる所で問題を投げかけている学制、就中入試、就職による抑制作用がかなり大きいものらしい。とにかく昆虫などをやる余裕がないというのだ。もう小学校を卒業する時に大学を卒業した時の事を考えている。中学校へ入ったと同時に入試問題と取組んでいるといっても過言ではない。特別教育活動どころの騒ぎではないらしい。はなはだしいのは目的達成の為に学芸会、体育会、修学旅行等それに直接役立たないと思われる一切の教育活動は中止にさえなるといふ。教える方もそれのみが教育であるかのように習慣的に思いこんでしまうようになるのかも知れない。豊かな人格完成の場などといくら叫んで見たところで、これでは一向にはじまらないであらう。感心出来ない鈍型に人間を流し込んでいるようなものが大学に入学したからといって急に立派にできてくるものではない。少なくとも中学校ぐらいまでは多少も余裕をもって大自然に接する機会ぐらい与えることの出来るようにしてもらいたいものだ。殊更準備をしなければできないような問題など常識的にも出るのはすがないし、出すのは愚であるそれよりもっと充実した教育活動を行うよう誘導すべきであらう。教育庁当局も毎年試験シーズンに当って、「準備は無駄である」ことをわざわざうたうぐらいでは真に意識が足りないといえよう。と、こうやって小さい方の同好者のとどえた事の責任やうらみを、入試準備転わしてみたところでしよせん仕方なく、むだに紙面を費したことになるらしいが、これもこれから解決しなければならない重要な事柄の一つである。

(小 野 洋)

編集後記

新年おめでとうございます。本誌もようやく第5巻を迎えましたので、創刊4周年記念号として、いつもより若干多く収容してみました。同時に本号からクイブ印刷に変えましたが、読み心地はいかがでしょうか。外は寒い風が荒れておりますが、はや編集室は春への明るい希望でみなぎっているようです。

すずむし 第5巻 第1号 昭和30年 1月31日印刷
昭和30年 1月31日発行

編集兼 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
発行 害虫学研究室内

倉敷昆虫同好會